

口腔気道ケア

2012年5月

口腔ケアという言葉をお聞きになる機会が多いと思います。口腔ケアとは、口の中を清潔にして肺炎（専門的には誤嚥性肺炎といいます）を予防しようとする試みです。脳血管障害やがんの手術で口の機能が障害されると、口の汚物が唾液と共に喉頭から肺に流れ込む。流れ込む汚物を遮断すれば肺炎になりにくいだろうと始まりました。

さて私が新潟大学に在職していた頃、毎日毎日、口腔がんの手術を行っておりました。がんは残さずに切除しなければ再発や転移につながります。そのため、舌や顎や頬を大きく切除するのですが、それによって呼吸や嚥下などの機能が障害され、手術後は誤嚥との戦いの日々となります。入院中ですから、毎日、徹底的に口腔ケアを行います。決まって一週間後には肺に影（肺炎の兆候）が現れます。あれだけ口腔ケアをしていたのにと落胆です。そこで、看護記録から吸痰回数を調べ、いつ誤嚥したのか調査しました。その結果はなんと、術後の痛みも和らいでやっと熟睡できた夜、その翌朝から吸痰回数が増加し肺に影が現れたのでした。

そうです、ここに睡眠との関連がありました。

すなわち、誰もが経験する睡眠中のムセは誤嚥の兆候なのです。そして、睡眠時無呼吸症候群のように口部気道に障害があると誤嚥の量は正常者の百倍にも増加することが海外の研究でわかっています。この経験から、誤嚥性肺炎の予防は口腔ケアだけでは不十分で、睡眠中の口部気道の積極的な管理（口腔気道ケア）が必要という結論にいたりました。今や、この口腔気道ケアは睡眠歯科センターの仕事のひとつになりつつあります。